



蒔絵箱「明日」 鬼平慶司 日本工芸会奨励賞  
—第58回 日本伝統工芸展金沢展—



蘇芳染竹網代飾箱 昭和55年 橋本仙雪 (石川県立美術館蔵)  
—特別陳列 竹工芸 橋本仙雪—

## 第58回 日本伝統工芸展金沢展

特別陳列

尊經閣文庫名品展

—国宝 宝積経要品—

特別陳列

竹工芸・橋本仙雪

—古典とモダンのはざまに—

—明日への視座—

古澤洋子・五味祥子・山下晴子展

石川県の名宝

—国宝・重文・県文—



氷食 (湖沢カール) 古澤洋子



羽化する人 五味祥子



星の座 山下晴子

# 第58回 日本伝統工芸展金沢展

主催／石川県教育委員会、日本放送協会金沢放送局、朝日新聞社、北國新聞社、日本工芸会  
後援／文化庁、富山県教育委員会、福井県教育委員会

10月28日(金)～11月6日(日)会期中無休

※最終日(6日)は午後5時まで  
(入場は午後4時30分まで)

|       |      |      |    |
|-------|------|------|----|
| 高校生以下 | 無料   | 無料   | 個人 |
| 大学生   | 四〇〇円 | 三〇〇円 |    |
| 一般    | 六〇〇円 | 五〇〇円 | 団体 |

※当館友の会員は、受付での会員証提示により団体料金になります。

**■観覧料**

我が国は、四季の気候条件に恵まれ、多様な自然環境が形成されています。その中で、各地の風土に根ざした工芸品が生み出され、伝統技術を大切に継承し発展させてきました。本展は、この優れた伝統技術の保護と後継者の育成、ならびに伝統工芸に対する普及を目的として、毎年開催されるものです。

今回は、陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・諸工芸(七宝・硝子・截金など)の七部門の入選作品六一六点の中から、重要無形文化財保持者・受賞者等の作品と、北陸三県、及びその他の地の入選作品を含め、約三三〇点を展示します。

今年の石川県の入選者は七一人で、そのうち漆芸部門で鬼平慶司氏が、日本工芸会奨励賞を受賞しました。

## ■展示作品解説

| 日時         | 11:00～     | 13:30～        |
|------------|------------|---------------|
| 10 / 29(土) | 《染織》毎田 健治  | 《陶芸》武腰 潤      |
| 30(日)      | 《陶芸》長谷川 壺人 |               |
| 31(月)      | 《人形》山本 榮子  | 《木竹工》水上 隆志    |
| 11 / 1(火)  | 《漆芸》前 史雄   | 《木竹工》細川 毅     |
| 2(水)       |            |               |
| 3(木・祝)     | 《陶芸》中田 一於  | 《木竹工》川北 良造    |
| 4(金)       | 《漆芸》市島 桜魚  | 《金工》大澤 光民     |
| 5(土)       | 《漆芸》小森 邦衛  | 《染織》坂口 幸市     |
| 6(日)       | 《金工》中川 衛   | 石川県立美術館長 嶋崎 丞 |

## 講演会

演題 「伝統工芸のこれから」  
講師 室瀬和美氏  
(漆芸家・重要無形文化財保持者)  
日時 10月30日(日)  
午後1時30分～  
会場 美術館ホール <入場無料>



友禅着物「白濁」  
二塚長生



袖裏金彩更紗文壺  
吉田美統



沈金箱「里山」  
前 史雄



網代隅切重箱  
小森邦衛



蒔絵箱「みのり」  
中野孝一



砂張平水指「恒星」  
魚住為衆



象嵌籠銀花器「夕映え」  
中川 衛



桜古材食籠  
川北良造

## 学芸員の眼

国宝 宝積経要品

尊經閣文庫の名品を紹介するシリーズの展示ですが、本年は国宝『宝積経要品』を紹介いたします。『宝積経要品』は、室町幕府の初代将軍足利尊氏の弟直義ただよしが、康永三年（一三四四）十月八日に、高野山金剛三昧院に奉納したものです。足利尊氏、直義兄弟と夢窓疎石の三人が『大宝積経』の主要な章段を写経し、紙背には天皇をはじめ武家、公家、和歌四天王など二十余名に依頼したという「なむさかふつせむしむさり」（「南無釈迦仏全身舍利」の読み）の十二文字を頭とする和歌の短冊を貼り継いだ、貴重な名品の特別公開です。写経の末尾に直義の跋分があり、そこには『宝積経要品』の意義にはじまり、直義と夢窓疎石が「摩訶迦葉会」を、尊氏が「優婆離会」を分担して写経したこと、

続いて、ある人（尊氏か直義本人）の霊夢によって「南無釈迦仏全身舍利」の各文字を冠した和歌を歌人に依頼して、仏道結縁のために奉納したことを記している。北朝の天皇や尊氏・直義とともに、後世「和歌四天王」とよばれた頼阿・兼好・浄弁・慶運の和歌が含まれており大変貴重な作品です。

本展では『宝積経要品』の紹介とともに、国宝「賢愚経」や重文の「法華経」・「貞元 華嚴経」などを合わせて公開し、写経の世界をご覧いただくとともに、吉田兼好筆の重文「兼好家集稿本」をはじめとする紙背に関連する歌人たちの書などの名品を展示いたしますので、この機会にぜひともご来館ください。なお、会期半ばで展示替えがありますのでご了承ください。

高野山金剛三昧院に奉納された国宝『宝積経要品』を、前田家が入手した経緯を紹介しましょう。この作品には多数の付属文書があります。それによると、「金剛三昧院什物之百式十枚之短尺」を最初に所望したのは前田家三代の前田利常です。しかし折り合いがつかずその際は断念しましたが、五代綱紀が再三にわたり所望し、堂舎修繕費として黄金三百枚を寄進することで、祖父利常以来の願望をようやく果たすことができました。そこには、「仏道歌道一如」という日本文化の根幹を踏まえた利常や綱紀の姿が彷彿とされます。こうした入手の経緯を示す文書も合わせて展示しますので、前田家の文化を再考いただければ幸いです。

### 特別陳列

## 尊經閣文庫名品展

— 国宝 宝積経要品 —

10月27日(木)～11月20日(日)会期中無休

前田育徳会  
尊經閣文庫分館

# 竹工芸・橋本仙雪

—古典とモダンのはざまに—

10月27日(木)～11月20日(日)会期中無休

## 第5展示室

### 学芸員の眼

砂漠の映像を見た橋本仙雪氏が、砂の上を吹く風によって生じる、風紋の美しさに惹かれて、竹工芸に応用したものが下記のような「風紋」シリーズです。形態を変えて幾度か制作されたこれらの作品は、漆を塗った白竹を、基本技法である麻の葉編みで器体の基礎とし、その上から白竹のすだれ（平ひごの千筋編み）、さらにその上から染めた竹のすだれを、わずかにずらして重ねています。この整然と並んだ線の重なりがモアレ現象を生じ、見る位置で次々に表情を変えます。これらが見せる表情の多彩さ、はかなさが、私たちに砂漠の風紋を思わせるのです。千筋編みそのものは、古くから行われていますが、この作品からは、それらを進めて応用することで、伝統技術と近代的造形性の見事な融合を見ることが出来ます。



花籃「風紋」昭和60年（個人蔵）

金沢で活躍した竹工芸家の橋本仙雪氏

（一九一八―二〇〇八）は、日本伝統工芸展をはじめとする各展覧会へ出品しながらも、茶道や華道、あるいは日常のさまざまな局面で用いられる「道具」としての竹工芸の、美と可能性を追い求めて制作を続けました。確かな技術に裏付けられた作品群は、伝統を踏襲しながらも創造性にあふれ、いずれも時代を超えた普遍的な美を感じさせます。東京での修業時代、師の黒田道太郎氏に竹工芸の伝統的な技術を学ぶかわら、黒田氏に竹製品の製作を依頼していた、建築家ブルーノ・タウト氏の薫陶を受け、西洋モダニズムに触れたこと、また金沢で作家として活動を始めて、先達の工芸家からの助言に従い、正倉院御物や千利休の茶道具といった古典、あるいはアジア諸国の伝統的な竹工芸に学んだことが、より一層、作品の魅力を深めたと言えるでしょう。

今回の展示では、橋本氏ご遺族の多大な協力を

得て、伝統工芸展などの展覧会出品作を中心とし

た三十一点を展示し、茶道や華道を嗜む人を中心とする多くの人々を魅了した、その多彩な作品群を一堂にご覧いただけます。

橋本仙雪 一九一八―二〇〇八

竹工芸家。石川県鶴来町生まれ。東京の竹工芸家・黒田道太郎に師事し、黒田に竹製品を注文していたブルーノ・タウトの薫陶を受けた。独立後金沢に移住し、作家活動を始める。昭和四十五年（一九七〇）より日本伝統工芸展に出品。六十二年（一九八七）朝日新聞社賞受賞。日本工芸会正会員。

#### ◆関連行事

キッズ☆プログラム鑑賞講座

「竹となかよし 橋本仙雪さん」

十一月十三日（日）午後一時三〇分

ゲスト講師／本江和美氏（竹工芸家）



竹網代色紙箱 昭和53年（個人蔵）



煤竹染分唐網代文机 平成3年  
（金沢市立中村記念美術館蔵）



## 第2展示室

# 石川県の名宝

—国宝・重文・県文—

10月27日(木)～11月20日(日)会期中無休

石川県には、歴史のあるいは芸術的に優れた文化財が数多く伝えられています。これは、江戸時代に加賀藩主としてこの地を支配した、前田家の文化的施策が大きな要因の一つであると言われていきます。そしてこうした歴史的背景を基盤とするとこの石川の文化風土は、芸術・文化全般に対する高い関心というかたちで今日に引き継がれています。能登地区は日本海の海上交通により、大陸との接触が早くから行われたため、歴史的な風土や文化を色濃く物語るものを中心とした文化財が残されています。一方、加賀地区では、古代・中世において白山信仰の中心であったことや、中央の社寺の

莊園として開かれたことにより、それを反映する文化財が残っています。また、前田家が加賀藩主となって文化の展開をみせて以降は、前田家を中心とする収集・育成された文化財が伝えられています。当館ではこうした文化財、とりわけ美術工芸品を中心に収集活動を行っており、ほかに保存と活用を目的として、県内の社寺や個人の方々から、指定文化財を含む多くの作品の寄託を受けています。今回の展示は、これら石川県の貴重な文化遺産の一端を知っていただくことを目的に、館藏品、寄託品の中から、国宝一点、重要文化財十点、石川県指定文化財五点、あわせて十六点を展示します。



重文 黒漆螺鈿鞍 鎌倉時代  
(白山比咩神社)

## 第4展示室

—明日への視座—

# 古澤洋子・五味祥子・山下晴子展

10月27日(木)～11月20日(日)会期中無休



未来の化石 古澤洋子

日本画家古澤洋子氏、洋画家五味祥子氏、彫刻家山下晴子氏による三人展を開催します。三氏は現在石川県を制作拠点として、県内はもとより国内外に発信し、展開をみせる気鋭の作家です。類い希な才能とたゆまぬ努力が求められる造形芸術の世界は、これまで男性を主体としたものでした。しかし、近年女性作家の活躍はめざましく、なかでも三氏は独自の視座で個性溢れる作品を創作し、豊穣な世界を築き上げています。今回の展示は近作を中心に、古澤氏は額装、屏風装を交え八点、五味氏は横四mの大作など九点、山下氏は石と金属を複合させた作品など十六点、計三十三点を一堂に会するものです。エネルギーッシュな創作活動の結実は、細やかな感性がきらめき、確かな存在感と永遠なるものへの憧憬がうかがえ、今後ますますの発展と深化が期待されます。日本画・洋画・彫刻、ことなるジャンルの三人の競演をぜひご覧ください。

### 作家略歴

古澤洋子(ふるさわ ようこ) 氏

昭和43年金沢市生まれ。平成5年金沢美術工芸大学日本画専攻大学院修了。15年第35回日展特選。20年第40回日展特選。23年「個展―大地の証言者―」開催(東京、愛知他)。

五味祥子(ごみやしこ) 氏

昭和24年山梨県甲府市生まれ。49年金沢美術工芸大学油画卒業。53年第63回二科展特選。62年第72回二科展二科賞。平成16年第89回二科展会員賞。23年個展「羽化する人」開催(東京)。

山下晴子(やましたはるこ) 氏

昭和27年白山市(旧鳥越村)生まれ。50年金沢大学教育学部卒業。54年金沢美術工芸大学彫刻科卒業。5月渡仏。56～86年イタリアで制作。平成2年辰口アーティスト村に移る。各国の国際展に出品。19年エマー国際アートシンポジウム(ドバイ)で制作。23年第1回モンターネビエンナーレ(イタリア)出品



ナビアの夢 山下晴子



羽化する人 五味祥子

■ギャラリートーク  
10月30日  
午後1時30分～3時  
展示室にて、三氏による  
作品解説を行います。

# 今月の企画展示室

## 第二十一回 北國水墨画展

十一月九日(水)～十一月十三日(日)

会期中無休

第7～9展示室

石川県内の水墨画愛好家団体を網羅した統一展です。近年愛好者の増加と作品の向上が著しい県水墨画界の結束を図るとともに、愛好者拡大を目指すねらいの展覧会で、作品は広く愛好者から公募して審査。入選、入賞作に委嘱作品も併せて展示し、水墨画の魅力を伝えるものです。

### ◇入場料

一般、大・高生／五〇〇円(四〇〇円)

中学生以下無料( )内は前売料金

※当館友の会員は、会員証提示により

前売料金

### ◇連絡先

金沢市南町二番一号

北國新聞社事業局内

「第二十一回 北國水墨画展」事務局

TEL／〇七六一二六〇―三五八一

## 第六十四回 示現会展巡回金沢展

十一月十六日(水)～二十日(日)

会期中無休

第7～9展示室(午後5時閉室)

(社)示現会は、本年四月、東京の国立新美術館で第六十四回展を開催しました。巡回金沢展では、昨年が続いて本部基本作品六十一点和地元石川県作品三十七点を展示します。

公募示現会展は、日展傘下の洋画展で、写実を中心とした作風を特徴とし、洋画家ならびに広く美術愛好家の鑑賞をいただいております。

昭和二十二年の創立以来、(故)大内田茂士、(故)榎原健三の両芸術院会員を輩出しています。石川県における本展開催により、今後とも県内美術界の恒例行事となることを目途に努力、精進いたします。

### ◇入場料

一般五〇〇円(十名以上の団体四〇〇円)

六十五歳以上四〇〇円 大高生三〇〇円

障害者手帳をお持ちの方(付添者含む)・

中学生以下無料

### ◇連絡先

森脇位泰

TEL／〇七六一―三二―一五三七

## 第一回 日展石川会展

十一月二十三日(水祝)～二十八日(月)

第7～8展示室(午後5時閉室)

平成二十二年、県内在住の日展会友以上の作家が集結して発足した日展石川会は二年目を迎えました。本会では、従来の巡回展である日展金沢展の開催されない本年「日展石川会展」を開催します。本展は第四十二回日展の依頼以上の出品者及び、入選作品を中心として展示します。

### ◇入場料

八〇〇円(高校生以下無料)

### ◇連絡先

北國新聞社事業局内

「日展石川会」事務局

TEL／〇七六一二六〇―三五八一

# 古美術優品展

## —山川コレクションを中心とした茶の湯の美—

平成24年1月4日(水)～2月5日(日)会期中無休

当美術館の古美術部門は、山川コレクションが質、量ともにその核となっていることは言うまでもありません。これは、金沢の素封家山川家の初代甚兵衛・二代甚平・三代庄太郎の三氏によって収集伝世されたものです。当館の顔ともいえる国宝「色絵雑香炉」(野々村仁清作)は初代甚兵衛氏の収集品であり、昭和三十四年の旧館開館を記念して、三代庄太郎氏から石川県へ寄附された作品です。三十七年には、庄太郎氏の遺言により山川美術財団が結成され、五十八年に財団創立二十周年と当館の開館を記念して、山川コレクションが石川県へ寄附されました。なお、山川邸は近代金沢の代表的商家の建造物として石川県指定有形文化財に指定され、現在は金沢湯涌江戸村で一般公開されています。

山川庄太郎氏の没後五十年の節目を迎えたことを記念して、金沢を代表する近代の数奇者山川家の茶道美術を中心に、当館が所蔵する古美術の優品を一堂に展示します。山川家三代が培った美の世界をご堪能いただくことで、当地の藩政時代より育まれた美意識が、確かな伝統として息づいてきた文化土壌を再確認し、その継承とさ



県文 和蘭陀白雁香合 デルフト窯

## 11月の行事予定

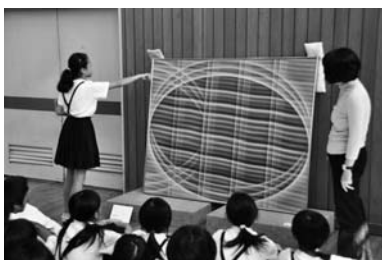
|  |  |
|--|--|
| <p>■土曜講座</p> <p>十三時三〇分 美術館講義室 聴講無料</p>                         |  |
| <p>十二日(土)</p> <p>依屋宗達 風神雷神図</p> <p>村瀬 博春 担当課長</p>              | <p>橋本仙雪</p> <p>寺川 和子 学芸主査</p>                              |
| <p>十九日(土)</p> <p>高光一也 馬に凭る</p> <p>二木伸一郎 担当課長</p>               |  |
| <p>二十六日(土)</p> <p>野外彫刻の楽しみ</p> <p>パブリック・アートを探る</p> <p>入場無料</p> | <p>二十日(日)</p> <p>洋画と日本画</p> <p>日本近代美術の出発</p> <p>(二十五分)</p> |
| <p>■ビデオ鑑賞会</p> <p>十三時三〇分 美術館ホール</p>                            |  |
| <p>■キッズ☆プログラム鑑賞会</p> <p>十三時三〇分</p> <p>二階ロビー集合 参加無料</p>         |  |
| <p>十三日(日)</p> <p>竹となかよし橋本仙雪さん</p>                              |  |

※古澤洋子・五味祥子・山下晴子展ギャラリートーク  
十月三十日(日) 十三時三〇分 第4展示室  
コレクション展示室観覧料が必要です。

らなる文化創造への一助となることを目的に、(1) 山川コレクションを中心とした茶の湯の美、(2) 古美術にみる日本の美、という二部門に大きく分けて展示いたしますので、ぜひお楽しみください。

〈主な展示作品〉

- 重文 色絵梅花図平水指 野々村仁清 一口 出前講座「どこでもミュージアム」が、能美市立湯野小学校で行われました。五、六年生約百二十名を対象にアートゲーム、対話型鑑賞を行い、美術に親しんで貰いました。普段美術館に足を運んだことのない子ども達には作品の前で感想を述べることも、楽しく良い刺激になったようです。
- 重文 西湖図 秋月等観 一幅
- 重文 四季耕作図屏風 久隅守景 六曲一双
- 重文 檜檜図屏風 依屋宗達 六曲一隻
- 重美 古今集巻第十八断簡(本阿弥切) 伝小野道風 一幅
- 県文 和蘭陀白雁香合 デルフト窯 一合
- 重文 伊羅保片身替茶碗 一口
- 重文 色絵花等香合 野々村仁清 一合
- 重文 色絵雑香炉 初代大樋長左衛門 一合
- 重文 詩絵和歌の浦図見台 伝清水九兵衛 一合



## ミュージアムレポート

### どこでもミュージアムイン湯野小

九月二十七日(火) 本年度二回目の学校

出前講座「どこでもミュージアム」が、能美市立湯野小学校で行われました。五、六年生

約百二十名を対象にアートゲーム、対話型鑑賞を行い、美術

に親しんで貰いました。普段美術館

に足を運んだことのない子ども達に

は作品の前で感想を述べることも、

楽しく良い刺激になったようです。

橋本仙雪 はしもとせんせつ 大正7年～平成20年(1918～2008)



網代とは、おもに竹などの薄く細い板を用いて、互い違いにくぐらせて編む技法で、目の詰まった籠や箱などの容器を作るときに用いられます。作者の技量次第で、編み方を工夫し、文様や文字などを表すことができることもこの技法の特質で、ここでは二色に染め分けた真竹を用いて、松皮菱を編み出しています。

松皮菱とは松の樹皮の割れに似せた、日本の伝統的な文様の一つですが、ここでは素材に竹を用いたことで、松と竹、二つのおめでたいモチーフの意味が強められています。側面は細く割った竹を立ち上げ、黒く染めた籐を帯状に編んで根元を留め、弾力性のある細い根曲竹を縁に用いています。緻密に編まれた盆の面と、すだれのように透かして、軽やかに仕上げた側面との対比で、それぞれの美しさが際立っています。

作者の橋本仙雪氏は鶴来町(現白山市)に生まれました。東京の竹工芸家・黒田道太郎氏に指示して古典的な竹細工の技法を学びながら、当時黒田氏に竹製品の製作を依頼していた、ドイツの建築家、ブルーノ・タウト氏の西洋モダニズム思想に触れました。独立して金沢で制作を始め、日本伝統工芸展をはじめとする展覧会へ出品してからも、正倉院御物や古い茶道具などの古典的な作品に学び、茶道や華道、あるいは日常のさまざまな局面で用いられる「道具」としての竹工芸の美を踏まえた作品を作り続けました。

※第5展示室で展示中

## 次回の展覧会

| 前田育徳会<br>尊経閣文庫分館            | 第2展示室   | 第3展示室          |
|-----------------------------|---------|----------------|
| 大名家の調度<br>— 婚礼調度を中心に —      | 大乘寺の文化財 | 没後25年<br>高光一也展 |
| 会期: 11月23日(水・祝)～12月23日(金・祝) |         |                |

### ご利用案内

#### コレクション展観覧料

一般 350円 (280円)  
大学生 280円 (220円)  
高校生以下 無料

※ ( ) 内は団体料金

毎月第1月曜日はコレクション展示室無料の日

#### 11月の開館時間

午前9:30～午後6:00

#### カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00

11月の休館日は  
21日(月)～22日(火)

やさしさ品質

お土産・和洋菓子・生鮮・惣菜・レストラン

地階 **エムザ** 食品館

“もっとお客様へ、もっと地域に”

MEITETSU  
**MIZA**  
めいてつ・エムザ  
金沢・むさしがは TEL代表(076)260-1111  
http://www.meitetsumza.com/

石川県立美術館だより  
第337号(毎月発行)  
2011年11月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel: 076(231)7580  
Fax: 076(224)9550  
URL <http://www.ishiki.pref.ishikawa.jp/>